

まちの話題

ユニークな着眼も

小学生が科学研究発表
白根地区児童・生徒科学研究発表会が十月八日、教育委員会庁舎で開かれました。この科学研究発表会は、児童・生徒の科学への関心と研究心を高めるため毎年行われているものです。小学生は身の回りの出来事をテーマにしたものが多く、また中学生では、遅延装置を作り牛乳が皿に落ちミルククラウンを作る瞬間を撮影するものなど、科学的にもしっかりしたものが目立ちました。

泥んこになって全校稲刈り 一大通小



十月七日、大通小学校（中林一朗校長）では、五月下旬に田植えをした学校田で、全校一斉に稲刈りを行いました。周辺に広がる水田を教材に農業への理解、労働意欲の向上を図ろうと昨年から始めたものです。学校田を無償提供してくれたPTAの役員の方から、稲の一生やカマの使い方を教わったあと田んぼへ。前日までの雨で、田の中は少しぬかるみ状態でしたが、全員泥んこになって稲刈りを楽しんでいました。

ゲートボールで 心地よい汗を

高齢者スポーツ教室

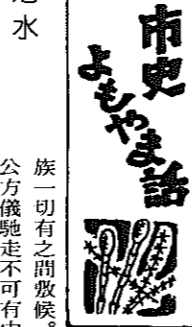


お年寄りからスポーツで体力づくりをしてもらおうと、十月六日から根岸地区で高齢者スポーツ教室が開かれています。種目はゲートボールで、根岸地区は参加者が多いことなどから、会場を二つ設け、それぞれ五回コースで行われています。参加者の中には、部落でユニホームをそろえてくる場所もあります。「いい運動になるよ」と、みんな心地よい汗を流していました。

元気に育てよと小えびを放流



「元気に育てよ」と十月十三日、中の口川で小えびの放流が行われました。この小えびは、体長三〜四センチほどのつらえびで茨城県霞が浦からもってきたもの。昔は、川などでよく見かけたえびも、最近ではほとんど見かけなくなったことから、信濃川漁協白根支部が約五万匹の小えびを放流したものです。



村政と治水

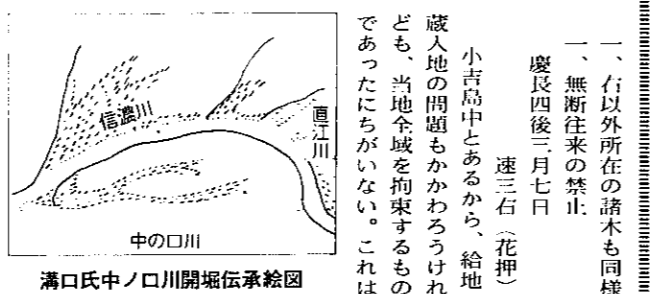
慶長三年（一五九八）に、領主が溝口氏となったが、中使の成員やその職務内容には急激な変化はなかったらしい。これを推測させる文書（写）が茨曾根の関根家にある。小吉島之条いほらそね村中使職之事如先二申付候。然者中使免野地屋敷以下不可有相違候。併百姓・軍事まわき共二可被申付候。横相之

慶長四年 速水三右衛門尉 戌三月七日 関根藏重殿 同家に具体的な村政の一端を同させる条々（写）がある。五カ条から成っているが、要約すると次のようである。

一、堤防保全の地域責任
一、川通の柳の植樹義務
一、川通諸木の伐採損傷禁止

仍如件。 族一切有之問敷候。万事公方儀馳走不可有由断候。

速水三右衛門尉 花押



古株では、植えいたがが大きく、なかなか元気な株になれないからです。ミヨウガは、横にはいずつている地下茎を掘って植えます。地下茎は長いままよりも、二節か三節に切って植えると、株数

一、石以外所在の諸木も同様
一、無断往來の禁止
慶長四後三月七日 速三右（花押）

小吉島中とあるから、給地・蔵入地の問題もかわらうけれども、当地全域を拘束するものであったにちがいない。これは

治水（増産）と往來禁止（農民土着）に注意が向けられていたことを示すものでもあろう。

「新発田藩史稿」「清水沿革誌」「中蒲原郡誌」などには小吉島内開発・堤防改修などの土木工事がかなり具体的、壮大に描かれている。しかし、右の条々からは、溝口氏の率先主導、能動的姿勢による人員・資材投下の伝承を導きがたい。

当地諸村の多くが慶長年間の開発によると伝えられる。しかし、伝承の成立をたずねると、近世中期以後の幕藩体制にかかわりあいの深い人々の手によってなされている場合の多いことを注意しなければならぬだろう。

が多くなります。

どちらか一年はきびしくても、やがて大株になったり、一面に広がって長年の収穫が楽しめます。（白根農業改良普及所・井沢文也）



アスパラガスとミヨウガ

今回は、北ヨーロッパ生まれのアスパラガスと、純日本生まれのミヨウガをとりあげてみましょう。

似たもの同志

□永年性で一度植えておけば、十年も十五年も収穫することができます。

□移植や株分けは、秋では十一月、春は四月です。

□暑さと乾きを嫌うので、立木や垣根のかげで、西日の当たらないところが適地です。

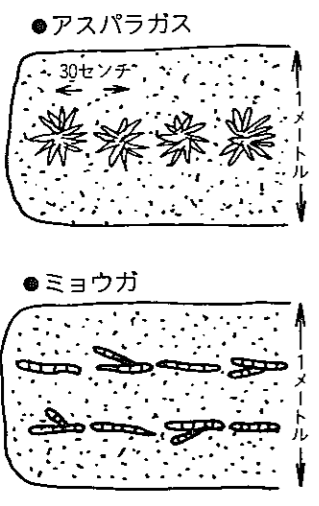
□化学肥料をあまり使わず、堆肥や乾燥ケイフンなどをやっておくと、病気の発生が少なくて寿命が長くなります。

植えつけ方

アスパラガスもミヨウガも、十一月の中ごろになると茎と葉は黄金になって枯れあがります。葉分が全部根の方へ移って、冬越しの準備ができたため、植え変えの好期です。

アスパラは、一年で仕上げた苗か、なるべく若い株を手に入れて植えることが大切です。

植えつけ方



市民文芸

短歌

俳句

菊香る白根社に文化祭 繪書の傑作殿堂に満つ 織田 護

秋の蚊のいたいたしさを叩きけり 石田 豊一
小さくも整ありし萩の庭 針貝 静男
秋の味離れ住む子へ荷作りぬ 中山 義英
きのこ取る嫁は山もと育ちにて 石田 豊実
近道をして草の実を付けて来る 田中 昭一
娘の縁談纏まりかけぬ鳳仙花 坪川桐太郎
居酒屋迄数分ばかりのそぞろ寒 眞保 清三
茸狩下から上をにらみつけ 牛脇 七郎
鶏頭の紅一杯に種をたく 西山 静江
刈り終えし蕪燃す煙夕霞 佐野たけ子
表具もの習って夜長の灯に親し 須戸 義夫
城跡へ登り護摩堂山無月 古川 辰家

川柳

絵はがきと同じ景色を見る旅 長井 徳市
指先きた幸せがつかめない 山岡 フミ
下駄箱で肩身をせまくして下駄 今井 七郎
夜の蝶密より甘い声が武器 後藤マサノ
コップ酒のうまさを知らぬ皇太子 吉川 彰
世の中を甘く見過ぎた転落詩 吉川 未吉
捜査陣のあせりを笑う犯人の影 高橋祐四雄
タクシーはミラーで客を値踏みする 中村 尚治
大根にしみてる嫁の味をほめ 成田 吉子
明眸はわかるが暗喙までゆかず 大井 義雄

白根地区安全運転管理 白根地区安全運転管理 故率が県最低でした。そのため、このほど白根地区安全運転管理者協会（白井辰男会長）は、関東管区警察局長と関東管区安全運転管理者協会会長から、表彰されました。

学校めぐり

七夕の日には 父兄の前で学習の成果を発表

小林小学校



小林小学校（笠原正義校長）は、明治八年開校以来、百六十年の歴史をもつ学校です。昭和四十九年十一月には、記念誌を発行するなどして創立百周年を学区あげて祝いました。本年度は二十三人の新入生を迎え、児童数百三十人、職員十人が協力しあってがんばっています。

教育目標は、よく考え、進んで実行する子供とかかげ、その目標実現に向けきめ細かな教育指導が行われています。大規模校の児童に比べると

どうしても人前で意見を発表することが不得手なことから発言発表の場を多くとるようになっているそうです。毎年、七夕の日に行う「七夕学習発表会」もその一つです。低学年、高学年それぞれ三〜四つのグループに分かれ、日ごろの研究・練習してきた劇、紙芝居、作文、スポーツなどを父兄の前で発表します。今年もクイズと手品の研究など、とてもユニークなものが発表されました。

また、学年の枠をこえた仲間意識を育てるため、全校児童が一緒になって活動できる行事を計画、実施しています。PTA活動も活発で、各種行事に積極的に協力してくれたり、日常はもちろん夏休み冬休みなど長期休業中の生活指導にあたって来ています。このため、非行に走る子供は一人もいないとのこと。戸頭小との統合が決まり、五十八年三月に長い歴史の幕を閉じようとしています。



七夕学習発表会